



忘れられない日本

グエン・フォン・タオ



ハノイ貿易大学大学
ビジネス日本語学部

鹿児島大学
法文学部

はじめに

私は 2015 年 10 月 1 日から日研生として日本の鹿児島大学に留学している。私の名前、グエンはベトナムで一番多い名字と言える。2016 年のある調査によると、この名字を持っている人数は人口の 40%を超えているそうだ。歴史の上ではベトナムの最後の王朝はグエンという王朝だった。グエンが多いのは王族の名字を付けるといくつかの政治的権利を得ることができるからだ。そのため、ベトナム人は他人を呼ぶとき、下の名前を使用する。これは日本の習慣と逆ではないだろうか。

私の出身はベトナムの首都ハノイである。来日する前に外国、又は他の地域で暮らしたことがないので、ハノイの 20 年間の変化がよく分かる。特に日本の影響でおこった変化だ。両親の時代、第二次世界戦争のせいか日本を排斥した人が多い。だが、私たちの時代になると、そういうイメージが変わった。

小学校の時、日本のアニメや漫画が始まり、ベトナムの学生たちは日本のことをますます好きになった。しかし、日本語を教える学校が極めて少なかった。私が漫画を読むために日本語を学びたいと思ったのは中学生 2 年生ぐらいだった。それから、日本語が学べるハノイ国家大学外国語専門高校に入る決心をして一生懸命勉強した。外国語専門高校はベトナムで外国語を教える高校としては一番良いと評価されている。

実はその時、化学も大好きで、ハノイの科学が有名な専攻学校も受けた。幸い、両方の学校に合格した。どちらにするか本当に迷った。最後にやはり日本語を選択した。

日本語を勉強すればする程、日本が好きな気持ちが段々大きくなってきた。ところが、日本語の難しさも深く感じるようになった。高校 1 年生の私は日本の大学に入るという夢があった。文部科学省の奨学金をもらって日本に留学するため、高校のときに日本語も英語も数学もできるだけ勉強した。ハノイ貿易大学に入ってからも一生懸命頑張り、推薦されて、奨学金をもらうための試験を受けたが、残念なことに 2013 年の試験は失敗した。

その時は来日できなかったが、ベトナムや貿易大学で様々なことを勉強した。大学で世界や母国の経済が分かるようになった。また、勉強だけでなく、日本の企業やベトナムの企業でインターンシップで働いてみた。共に発展するためのボランティア活動にも積極的に参加した。また、ハノイで行われた各国際会議の時は通訳のアルバイトをした。



大学生の 3 年間のおかげで、日本とベトナムのつながりがどうして強くなっていくかが分かるようになった。経済をはじめ、政治・文化・教育・厚生といった多くの分野で協力して

いるからだ。¹JETRO の調査によると、ベトナムに投資しようと思う日本企業の数が増える傾向がある。2016年4月までに²JBAV の会員の数は 1550 企業に増えた。ベトナムに投資している国のなかで第 3 位になった。ベトナム人やベトナムの企業として、日本からの投資はチャンスだが、チャレンジという面も少ないわけではない。

将来、私は日本に関するベトナム政府の貿易管理部、あるいは外交省で働きたいと思っている。両国の協力がスムーズにできるように、お互いのことを分かる必要がある。私は仕事のためベトナムに住んでいる日本人に多く会った。その人々はベトナムの文化・生活が分からないと仕事は順調にできないと言った。

私はその意見に賛成する。来日前に 5 年以上日本語や日本のことを勉強したことがあっても、どこかでコミュニケーションがうまくいかないと感じていた。やはり日本に暮らさないと、日本人のことはなかなか分からないだろう。

そう考えていた時、学部長の先生が私に「もう一度文部科学省の奨学金に応募しないか、今度は 1 年間の交換留学だからいいチャンスだよ」とすすめてくれ、すぐに同意した。日本に留学することは中学校の時から今まで私の夢だったからだ。

そろそろ 1 年間の日本留学が終わるので、自分の体験したことや日本で印象に残っていることを述べたいと思う。

¹日本貿易振興機構

²ベトナム日本商工会

第一章：日本で行った地域

1. にぎやかな東京

これまでに上京したのは2回である。初めて東京に行ったのは去年11月の下旬ごろであった。実は11月8日は私の誕生日なので、今度の誕生日は特別なことをやろうと思って、一人で東京に旅行することにした。ベトナム人は、誕生日は普通友達や親戚を誘い、パーティーを行う。一人で誕生日を過ごしたいと思う人は少ないようだ。しかし、自分の誕生日にやったことがないことをするのは面白いのではないか。

初めての一人旅なので、準備しなければならないことが多かった。また、来日したばかりなので、日本語はまだうまくなかったし、交通・飲食・宿泊などに関することもほぼ分からなかった。旅行する前も旅行中も大変なことがたくさん起こった。だが、最後はやりたいことはほとんど出来たから、本当にうれしかった。決心をしたら何でもできるということが分かった。

東京はやはり世界で有名な都会だ。朝から夜まで一日中いつも混んでいてにぎやかだ。特に渋谷の交差点。前に写真を見たけれども、実際に見たときはもっと驚いた。また、東京に外国人がずいぶん多い。明治神宮・原宿といった観光地で私と同じように一人旅する人とよく会った。私はその人たちと経験や東京についての印象を話すのが楽しかった。

右の写真は明治神宮で21歳の祈りを書いた絵馬を持ち、香港から来た優しい旅行者に撮ってもらった写真である。さらに、明治神宮に菊が美しく咲いていて、本当にきれいだった。その日に、菊は日本



の国花だと習った。神宮の鳥居には菊のシンボルも付いている。



二回目の上京は桜の季節であった。ベトナムから来た友達と一緒に上野公園へ花見に行った。そこに非常に大きな桜の木がたくさんあり、ちょうど満開の時を見られたのは最高だった。しかし、上野公園は観光客が多すぎた。私にとっては六本木の桜並木が一番好きな場所である。

実は日本の桜はハノイで見たことがあるが、枝が少なかったもので、そんなに美しくないと思った。しかし日本全国に桜並木がたくさん植えられ、春になると、南から桜が咲いていくのは本当に素晴らしい。今はなぜ日本人がそんなに花見が好きなのかが分かるようになった。

東京で、一番印象に残ったのは交通機関である。住民や観光客でいつも混んでいるので、電車やバスはさまざまな種類があり、便利だが、多すぎて、地下鉄の時刻表を調べるのも、乗車のプラットフォームを見つけるのも時間がかかる。東京メトロの地図が全く読めなかったが、スマホのアプリを使って、なんとか行けた。

2. パッションフルーツがある屋久島

去年 11 月の下旬、鹿児島大学の先生や留学生と一緒に屋久島のエコツアーに参加した。屋久島は日本で初めて世界自然遺産として登録された。世界遺産といっても、富士山・姫路城などに比べて私たち外国人にとってあまり知られていない地名と言える。しかし、旅行する前に、屋久島についての授業を受けたので、この島についてある程度分かるようになった。

島のおよそ 90%は森林、海からの湿った風がこれらの山にぶつかるため、毎日と言ってもいいほど屋久島は雨が降っている。また、南日本に位置し、1000m から 1900m までの山々があるから、熱帯の植物もあるし、温帯の植物も豊かである。屋久島で久しぶりにパッションフルーツのジュースを飲むことができ、本当に嬉しかった。また、屋久島の森林はベトナムの森と随分似ていると感じ、自分の国にいるみたいだった。森を見学するとき、様々な種類の植物があり、勉強になった。最も不思議なことは、死んだ木の幹に新しい木が生えてくることである。森・滝などといった屋久島の自然の景色は本当に素晴らしいと思う。

屋久島の森の観光だけではなく、住民とも交流した。伝統的で素敵な日本の料理を食べることができ、おいしかった。それに、一年中きれいな花を飾ってあるお墓も訪問した。自然の恵みのおかげで、美しい花がいつも咲いている。また、屋久島で中学一年生の皆さんとも交流した。私たちは自分の国を紹介し、中学生からは屋久島のことを紹介してもらった。その後、学生たちと一緒にゲームにチャレンジした。最後に失敗したが、皆で頑張っていて楽しかったから、私にとって忘れられない記念である。

しかし、心配なこともある。旅行の発達のせいで、屋久島の環境が汚染されている。現在、森を保存しないと、将来私たちはこんなに美しい屋久島が見られなくなるのではないだろうか。エコツアーの必要性が分かった。ベトナム人は日本人の環境を守るという意識を学ぶべきだと思う。



左の写真は留学生の皆さんと足湯を体験しているところである。この足湯は本当に特別だ。石を火で焼いて、熱々のうちに、水を入れ、足湯ができる。

この旅のおかげで、私たちは知らない人と仲間になった。皆さんと一緒に旅行し、心から嬉しかった。

3. 美しい京都

京都は従来外国人にとって日本で最も人気がある観光地と言える。私も来日の前に、京都に最低一度は行きたいと思った。それは平安時代についての漫画が大好きだからだ。春休み東京へ行く前に、ベトナム人の友達と一緒に京都に旅行した。その時、大阪や奈良も行ったが、やはり一番印象に残ったのは京都であった。

京都は伝統と現代が同時に存在している都市である。祇園といった旧市街も、清水寺や平安神宮といった伝統的な建築も本当にきれいだ。私が好きなことは自然と調和することである。特に銀閣寺と清水寺の景色は素晴らしい。そして、河原町通りのような京都での現代的な場所も素晴らしいと思う。



私が京都に興味を持っている理由の一つはお寺である。私の宗教は仏教なので、京都のお寺をぜひ訪問したかったからだ。けれども日本のお寺とベトナムのお寺の間には大きな違いがある。ベトナムのお寺には必ず仏様の像があり、目立つ位置に置かれ、仏像に向かって拝む。逆に、日本のお寺には仏様の像があるかどうか分からない。あると聞いたが、目で見たことがない。それに、日本のお寺は面積は小さいが、池などの自然の庭園がきれいで広い。しかし、ベトナムのお寺は完全に逆だ。

他に、京都で面白いことを体験した。それは着物を着て散歩したことだ。最初の印象は着物の着方が極めて複雑だというものだった。だが、鏡を見ると嬉しくなった。私は着物が非常に似合っていた。着物を着ると、日本人の女子になれると思った。銀閣寺や哲学通りで外国人と一緒に写真を取ってもらえるかとよく聞かれた。本当に面白かった。



4. 親しい鹿児島

私は鹿児島に来る前に、家を離れて一人で暮らしたことがない。そのため、この1年間鹿児島に留学することは私にとってたくさんの意味がある。鹿児島大学国際交流会館は私の第2の家になったと言える。

鹿児島で様々なことを初めて一人で体験し、様々な国から来た友達ができ、様々なことを学んだ。まず、生活用品を買うことから公的な書類を記入することまで自分自身でしなければならなかった。来日したばかりの時、日本語がまだ下手だったので大変なことが多かったが、学んだことも少なくない。しかし、先生たちや先輩やチューターのおかげで、3週間で鹿児島での生活になれた。

実は鹿児島市は住みやすい所だと思う。物価も安いし、市電やバスの使い方も簡単だし、外国人のための案内書も分かりやすいからだ。それに、住民は法律をきちんと守り、犯罪も少ないらしいので、安心して暮らすことができると思う。

鹿児島は日本で有名な観光地ではないが、美しい場所はずいぶん多いと言いたい。例えば、出水市や桜島火山や鹿屋のバラ園や指宿などである。当然屋久島や奄美は最高だが、到着するまでが大変だ(船に乗らないと)。その中で、私は出水市と桜島と鹿屋に行ったことがある。留学生の皆さんと一緒に観光したので、本当に楽しかった。

もう一つの言いたいことは災害についてである。日本に来る前に、日本は地震が多いのにどう対応すればいいか分からなかった。それに、鹿児島には火山もある。地震や火山は非常に怖い災害ではないか。しかし、日本に住んでから、そんなに怖くないと感じてきた。熊本地震は本当に怖かったが、鹿児島市は安全と言われたので安心できた。また、防災セミナーなどがよく行われ、本当に役に立つと思う。

また、鹿児島市で社会活動にも積極的に参加した。おはら祭りで日本人の学生と留学生と一緒に踊ったり、小学校で英語を教えたり、また、MBCのテレビ番組にも出演した。

まとめると、一年間鹿児島市に住み、色々なところに旅行でき、心からありがたいと思う。文部科学省の奨学金をもらえたおかげで、それらのことができたからだ。日本での生活、日本の4つの季節の景色、日本の1年間のお祭り、日本の他のたくさんのこともいつまでも忘れられないと信じている。この1年間で、怖いものが少なくなり、できるようになったことや学んだことが増えた。自分自身が随分成長してきたと感じる。日本語に限らず、人間関係や人間と環境の関係について新しい発見があった。



第2章：日本で会った人々

1. 日本人

以下に紹介する人々がいなかったら私の1年間の交換留学は完璧なものにはならなかったと言える。

まず、私のチューターに心からありがとうと言いたい。彼女は可愛い、優しい、やはり日本の伝統的な女性と言える。私は日本に来たばかりのころ、日本語に全く自信がなく、彼女も初めてチューターの仕事をした。その時コミュニケーションがどうしても順調ではなかったが、気が長い望美ちゃんのおかげで、難しい公的書類がはっきり分かった。一緒に授業を受けたことはないが、いつも気にかけてもらい、望美ちゃんのことを本当に好きだ。

次に、鹿児島大学の先生たちにも感謝したいと思う。確かにベトナムの大学は先生と学生の関係は冷静かもしれない。鹿大の先生とは親しみが感じられる。特に留学生センターの先生たち。思いやりがあるし、ユーモアがある先生のおかげで、日本語の授業をいつも楽しんで受けることができた。時々先生とは感じず、親しい両親と感じたこともある。

私は日本語を勉強したので、ベトナムで日本人の知り合いや友達がよくできた。その人々は貿易大学の先生・交換留学生・インターンシップした会社の人・一緒にボランティアした友達等である。彼らは東京出身、大阪出身、福岡出身、名古屋出身などである。皆、日本に来たら、ぜひ遊びに来てくださいと誘ってくれた。日本で再会でき、本当に嬉しかった。しかし、やはり全員のところは訪問できなかった。残念だったが、必ず日本に帰ってくるので、その時まで待とうと思う。

他に、留学生として中学校で交流した体験がある。小学校で英語を教えるボランティアをした。それらは本当に面白かったし、学生から様々な事も学べた。また、小学生と中学生の間に大きな差があると気付いた。小学生は私にたくさん聞いてくれたが、中学生はもっと恥ずかしがり、紙を見ながら質問した。この点はベトナム人の学生と似ていると思う。私の英語がよくないので、話したいが、何を言ったらいいか迷ってしまった。しかし、もしもっと交流したらもっと慣れてくるのではないだろうか。ベトナムではこのような交流活動がないため、導入したほうがいいと考えている。



それに、小学生たちは可愛くてたまらない。私への手紙に限らず、鹿児島ガイドの絵本を作ってくれた。この絵本は私にとって貴重な財産の一つになった。誰でも電子メールを使用する現代の社会では、手紙をもらうことが本当に嬉しいことだと分かった。

ところが、一つ残念なことがある。それは日本人の友達があまりできなかったことだ。学部の授業を受けていないから、日本人のクラスメイトは一人もいない。しかしながら、国際交流会館に通い、外国人とおしゃべりしたい鹿大の日本人の学生が少なくないため、数人の友達ができた。

2. ベトナム人の先輩

鹿児島に来る前に、鹿児島にはベトナム人がいないかもしれないと思ったが、実際は逆だった。鹿大でベトナム人の先輩は20人ぐらい留学している。水産学部・医学部・工学部・農学部・法文学部・獣医学部などで一生懸命勉強している。日本に住んでいるベトナム人が随分多いが、ベトナム人のイメージがよくないという印象をもっていた。しかし私は、鹿児島大学の先輩を尊敬している。皆さんは学歴が素晴らしいだけでなく、ベトナム文化の美しさを積極的に日本人をはじめ世界の友達に紹介している。

先輩たちのおかげで、私の外国での生活はやさしくなった。私は6年間日本語を勉強していたのに、日本に来たとき、やはり一番チャレンジしたことは言語だと言える。日本語が上手な先輩がいることを知ったら、安心できた。それに、日本で外国人の権利や不便なことも教えてくれた。やはり外国で暮らすとき先輩がいるのはラッキーなことだ。

ところで、鹿児島で、日本の企業や日本の大学に入るために日本語を勉強しているベトナム人の学生にもよく会った。また、卒業して日本で勤めている人も少なくない。現在ベトナムに真面目な人が少なくなってきたと言われている。しかし、日本で会ったベトナム人は皆、一生懸命研究している、または働いている。日本の物価が高いため、留学生や実習生の生活が辛いですが、楽しんで頑張っている。その思いを学ぶべきだ。



この写真は今年のお正月に皆さんと一緒にベトナムの料理を作り、新年を迎えた写真だ。

3. 外国人の友達

日本で一番面白い体験は外国の友達がたくさんできたことだ。国際交流会館に住んでいるため、各国の料理がよく食べられ、日本語以外のさまざまな言語も学べた。さらに、本やインターネットを調べなくても皆さんの母国のことも分かるようになった。どんな国もベトナムに比べると共通点や相違点を持っている。また、日本で何か発見したらお互いにシェアする。非常に便利だし面白かった。

現在、もし私が世界旅行するなら、世界中に案内者がいるはずだ。アジアはもちろん、アメリカもオーストラリアもアフリカもヨーロッパもどこにでも友達がいるからだ。今から世界旅行の計画を立てるべきだと思っている。当然、ベトナムに行く予定がある友達も少なくはない。



日研生として日本で皆さんと出会い、一緒に勉強し、一緒に旅行し、一緒に生活し、いつまでも忘れられないと信じている。

まとめると、この一年間たくさんたくさんの人々と会った。一人ずつにありがとうと言いたい。皆さんのおかげで、日本のこと、ベトナムのこと、各国のことについてもっと分かるようになった。

まとめ

私は元々日本の漫画や文学が好きだというのがきっかけで、日本語の勉強を始めた。日本語を勉強すればするほど日本のことをもっと好きになった。それから、漫画や本に書いてある日本のことを体験したいと思っていた。いま夢は現実になり、本当に満足している。

日本で様々な地域に行き、様々な人と出会ったため、去年の私と比べると非常に成長したと感ぜられる。まず、本に書いてあることは実際に正しいこともあるし、正しくないことも少なくないと気付いた。次に、自分の問題解決の能力が上達した。一人暮らしなので、どんなことがあっても自分で解決しないといけないからだ。

外国に住んでいるから、日本人をはじめ、外国人はベトナムのことやベトナム人についてどう書いたか、どう思っているかが分かるようになった。一方、各国のことについて本当のことが確認できた。

この一年間は私にとって大きな意味を持っている。

〈添付：屋久島異文化交流セミナーでの発表資料〉